

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870300864
法人名	有限会社 三幸
事業所名	グループホーム つしま
所在地	愛媛県宇和島市津島町高田甲83-1
自己評価作成日	平成26年5月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年6月4日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

今年度は、理念「穏やかにその人らしく過ごせる日々をお手伝いします」を基に、季節の行事やレクリエーション等に取り組んでいます。全員が参加しなくてもいい、体調が良い時に参加してもらおう等の気軽な環境の中で、ご利用者さんが「今日は楽しかった、穏やかに過ごせた」と感じてもらえるような支援をしていきたいと取り組んでいます。職員同士でも「今の対応は気持ち良かったから真似してみよう」と、ケアの質の向上に取り組んでいます。

利用者個々の担当職員がサポートして、ご家族に年賀状を出せるよう支援されている。友人の送迎にて、以前から参加している集会に定期的に出かける方もおられる。馴染みの美容院を毎月利用する方や、就寝前にお酒を少々たしなむ習慣のある方も続けられるよう支援されている。ご家族が遠方にいる利用者には、電話でお話できるよう取り次ぎして支援されている。

事業所の周辺を散歩して、老人会のゲートボールを観戦したり、秋には、コスモスを手折って、居間や居室に生け楽しまれている。利用者の状態や歩ける距離をみながら、近所にある管理者宅でお茶を飲み、一休みして戻るような場合もある。人出の多い日曜日は避けて外出できるよう配慮されており、ご家族や地域の方も誘って、一緒に南楽園に出かけたり、地域にある温泉で足湯を楽しまれることもある。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム つしま

(ユニット名) やまも

記入者(管理者)  
氏名 土居松美

評価完了日 平成 26 年 5 月 10 日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 開設して10年目に入った今年度は、ユニット会議において理念を基に目標を決め取り組んでいる。職員はご利用者やご家族と信頼関係を築き、管理者は職員と共に「ご自分たちで選んだ人生を歩める」よう理念を共有して介護を実践している。	
			(外部評価) 「穏やかにその人らしく過ごせる日々をお手伝いします。寄り添い 共に歩き ぬくもりのある生活を支援します。」と理念をつくり、新しい職員には、まず理念を理解してもらえよう、言葉だけでなく意味についても説明されている。事業所では、ご家族がいつでも利用者に会いに来られるように、面会時間の制限を設けず、又、ご自宅で過ごしているような支援に努めておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会開催の避難訓練や地域のお祭り等に参加させて頂いている。会場ではご利用者の知り合いと出会い、お元気な姿を見て喜んで頂くこともある。職員の子供たちを始め近所の子供が学校帰りにホームに寄り、入所者の方と話していることもある。また近所の方がホームの周りに季節の花を植えてくださり、ご利用者の楽しみとなっている。	
			(外部評価) 地域の方達は、「つしまが一番いい施設になってほしい」と願っておられ、日ごろから気にかけてくれている。地元のケーブルテレビの取材を受けた際には、「ホームに喜んでもらえるよう、稲刈り後の田にコスモスの種を撒いている」等、活動の説明をされたようだ。近所にゲートボール場があり、散歩の途中には、「一緒におやつどうですか」と誘ってくださる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 2か月に1度の推進会議を通じて話をしている。その際事業所の取り組みや、職員が参加した研修の報告をして支援の方法を共に学び、地域での認知症介護に活かしている。地域の方からの介護相談も行っており地域貢献をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議のメンバーの方や市の担当者になるべく会議に参加できるよう日程を調整している。会議自体も意見を出しやすい環境を整えご利用者の入退居、ホームの行事、日常生活の様子を報告して、会議で提案された意見を活かしている。</p> <p>(外部評価) 会議は、第三水曜日の日中に行っておられ、近所の方は誘い合わせて参加されている。ご家族には全員に案内しているが、参加にはつながりにくいようだ。今年の10月に行う運営推進会議は、ご家族が参加しやすいよう、又、地域の方と交流できるように、夕方に行う「感謝祭」と併せて開催することを計画されていた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 宇和島市の「だんだんネット」に登録して、玄関には登録ステッカーを貼り、地域包括支援センターからの行方不明の高齢者の情報等があった時には捜索の協力をしている。市内の事業所で「グループホーム連絡会」を作り、事業所間で交流できるような体制づくりもしている。</p> <p>(外部評価) 今年度から市では、事業所ごとに一年間運営推進会議に参加する担当者を決めておられ、書面で知らせてくれている。ひとり暮らしする高齢者の方について近所の方からの相談には、市の担当者の方から事業所に見守りの依頼があり、半年ほど暮らしの様子を見守った事例がある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 代表者と職員は会議の度に、「安全を守る」と「自由な暮らしを築く」にはご利用者をどう支えられるかを常に話し合っている。その為に職員は勤務時間の調整や、施錠をしないことへの理解を十分に示すことができている。</p> <p>(外部評価) 事業所では、「拘束は介護力不足、拘束しても解決はしない」と考えておられ、原因を探り、対応策を話し合いながら拘束をしないケアに取り組まれている。問題発生時には、その都度、勤務する職員で話し合い、全職員に周知し、再発防止に努めておられる。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  虐待の防止や見過ごしを年間の研修に組み込み、資料等にて学び徹底している。また日常にご利用者の身体に異変がないか等注意をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  親しい弁護士や、司法書士に指導して頂いている。管理者は社内研修等において制度について学ぶ機会を設けている。また制度を理解し相談等があれば支援できる体制にある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約時には十分な時間をとり、利用者やご家族の不安や疑問点を尋ね、また質問を受け十分に理解をして頂き納得した契約となるよう努力している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  比較的頻回に面会に来られるご家族が多いため、その都度現状報告や要望を聞くようにしている。職員はいつも笑顔で迎えゆっくり時間を過ごして頂く様心がけている中で聞かせて頂いた意見や要望はスタッフで話し合い改善している。長い間面会のないご家族へは手紙等において様子をお知らせしている。  (外部評価)  事業所では、「利用者やご家族をサポートすることは当たり前のこと」として、取り組みを詳細に報告することはあまりしておられないが、何かあればその都度相談して取り組まれている。ご家族からは、「家族の死をどう伝えたらよいか」「親戚の葬儀への参列」等について相談があるようだ。ご家族と一緒に行事を楽しめるよう、来訪時や遠方の方には書類に同封して案内をされている。	事業所の取り組み等をより具体的に伝えたり、ともに活動するような機会を工夫しながら、ケアパートナーであるご家族からサービスへの希望や意見をうかがえるよう、取り組まれてはどうだろうか。

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 2ヶ月に一度職員だけでのユニット会議を行い主任より代表者へ報告をしている。代表者が会議に出席しないのは職員同士率直な意見が出やすいであろうとの配慮である。その為代表者は運営に関する意見や提案も、できる限り聞き入れるよう努力している。子供を持つ職員には勤務表の調整をしたり、子供を連れて勤務できる等の配慮をしている。	
			(外部評価) 夜間は管理者を含め近所に住む職員3名が、いつでも駆けつける体制を作っておられ、職員の安心感につながっている。研修は、1年間のスケジュールを立てており、順番に受けて報告するようになっている。職員は気づいたことや、やってみたい事を書面にて提出し、検討しながら取り組みをすすめておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 時間外勤務はさせない、働きやすい勤務表の作成、職員の急病時の対応を行っている。代表者は個々の努力や各自向上心を持って働ける職場環境を整え、定期昇給や賞与支給も業績によって行っている。また資格取得の奨励にも取り組んでいる。	
			(外部評価) 職員の研修参加は運営規程にも定めている。皆が順番に希望する研修に参加できるよう勤務体制も整えている。介護福祉士試験等も個別に勧め、それぞれの力量に応じた資格等の取得向上にも努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 他施設見学や食事会をして交流を図っている。また定期的に行われている宇和島市グループホーム連絡会へも参加し、情報交換や勉強会を行いサービスの質の向上に努めている。	
			(外部評価) 他施設見学や食事会をして交流を図っている。また定期的に行われている宇和島市グループホーム連絡会へも参加し、情報交換や勉強会を行いサービスの質の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 他施設見学や食事会をして交流を図っている。また定期的に行われている宇和島市グループホーム連絡会へも参加し、情報交換や勉強会を行いサービスの質の向上に努めている。	
			(外部評価) 他施設見学や食事会をして交流を図っている。また定期的に行われている宇和島市グループホーム連絡会へも参加し、情報交換や勉強会を行いサービスの質の向上に努めている。	
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用開始前には訪問調査やホームの見学も受け入れ、本人の希望や不安に対する話に耳を傾け、これからのホームでの生活が良いものになるよう配慮している。入居後も不安や要望を傾聴し安心して暮らせるよう努力している。	
			(外部評価) サービスの利用開始前には訪問調査やホームの見学も受け入れ、本人の希望や不安に対する話に耳を傾け、これからのホームでの生活が良いものになるよう配慮している。入居後も不安や要望を傾聴し安心して暮らせるよう努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			介護相談や入居前の見学の段階でご家族の不安なことや要望を十分に聞きとり、適切な対応をすることで関係づくりに時間を使うことにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			入居前後において現在一番必要なサービスは何かを見極め、相談内容によっては他の事業所を紹介している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			食事や日課を共に行う中で、介護する側される側という意識をなくし、共に行い共に話し合える関係を作るようにしている。また行った作業や家事に対して感謝の心と言葉をわすれないようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			面会の時やお便り等でご本人の様子を伝えている。ホームでの生活は面会時間を設定せず自宅での生活の延長ととらえているため御本人の体調が悪い時は御家族が夜間も付き添って協力して頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			入居前に活動していた会の仲間の方が訪ねてこられたり、近所の方や知人には入所時から変わりなく面会に来ていただいている。また退所されたご家族との交流もありボランティアや運営推進会議への参加もいただいている。退居された方のお知り合いが入居の申し込みに来られることもある。	
			(外部評価)	
			利用者個々の担当職員がサポートして、ご家族に年賀状を出せるよう支援されている。友人の送迎にて、以前から参加している集会に定期的に出かける方もおられる。馴染みの美容院を毎月利用する方や、就寝前にお酒を少々たしなむ習慣のある方も続けられるよう支援されている。ご家族が遠方にいる利用者には、電話でお話できるよう取り次ぎして支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握するため一人一人の思いを聞いて必要な場面には利用者同士の関係づくりを支援している。席の配置を考え利用者個別に話ができる環境も整えている。またレクレーションや日課でお互いに交流が図れるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院等で利用が終了してもお見舞い、御家族の要望で支援している。サービス利用が終了された方からも個人情報への配慮やご家族の心情に配慮しながら行事への参加や連絡がいただけるなどの関係にある。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時にはご家族より「ご本人の触れてはいけないこと」等を聞き取り、職員に周知している。また楽しかったことや嬉しかったことも聞き出来る限り人生の最期まで豊かな生活を送ることができ、職員はそれに寄り添えるような関係づくりを心がけている。	
			(外部評価) 事業所では、「利用者のできることを發揮していただけるような支援」を目指しておられる。あまり意見を表さない利用者の方には、表情も見て対応することを心掛けておられる。	利用者一人ひとりが自分らしく最期まで暮らすことを支援するためにも、個々の情報を蓄積して利用者主体のケアにつなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族、本人からは出来る限りの情報収集をしているが、独居であった方については難しい方もおられる。プライバシーにも配慮しながら入所時のアセスメントや日々の生活からも情報を収集している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入所時の情報や入所後の状況を観察し職員間で話し合うようにしている。毎日のバイタルチェックからは身体状況、心身状態等把握し、体調の変化などに気づくよう努めている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人・御家族に事業所での生活について希望を聞き主にそれを中心にカンファレンスにて意見をまとめ作成している。ご家族へは「ご家族は100%ご利用者の見方であってほしい」「大切だからホームに預けるという気持ちでいて欲しい」と伝えチームでつくる介護計画に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>「利用者の実現可能なこと」を介護計画に挙げて支援されている。ご家族から「我慢させなくていいから」という要望があり、医師と相談しながら、食事制限せず、利用者がお好きなものも食べられるよう、支援している事例がある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日勤帯、夜勤帯と介護日誌や介護記録にご本人の毎日の状態を記録している。ご利用者との会話やご本人の状況、変化を見落とさないよう記録している。カンファレンスの際には日々の暮らしやケアプランを客観的に見つめなおし介護計画の見直しに役立てている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>認知症のある方々が日々落ち着いた生活を送ることが出来るようその都度臨機応変な対応をしている。ご本人・御家族の状況や要望に応じて通院、外出の支援などを行っている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域資源として活用できるものはご本と共に活用し、ご本人の望む暮らしが出来るよう努めている。ご本人の出来る事を把握して安全に発揮できるよう見守りや声掛けをお願いしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 本人やご家族と相談してかかりつけ医を決めている。事業所に近くには協力医療機関がある為、往診に来ていただいたり、ご家族が受診に付き添われたり職員が同行して円滑に受診ができる体制を整えている。医師からの説明を聞く際には管理者がご家族と共に聞くようにしている。</p> <p>(外部評価) 入居時や体調変化時等には、協力医も同席してくれ、ご家族と一緒に話し合う等してきめ細かいサポートをしてくださっている。市の広報紙に協力医が、「延命治療」について書かれた記事を各フロアに掲示しておられた。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 日常生活の中で気付いたことは看護職員に報告・相談するようにして、常に適切な対応ができ健康管理を行うようにしている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入院時は出来る限り面会に行き安心できるようにしている。病院関係者との情報伝達が円滑に進むよう普段から報告、連絡、相談をこまめに行っている。退院時にはサマリーや退院時療養計画書等を参考にしている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者が重度化してから終末期のあり方等について希望を聞くのは難しいため、普段の会話の中から聞くようにしている。事業所は看取りの指針を定め、本人・御家族の希望を聞きながら、かかりつけ医を交えて話し合いをしている。</p> <p>(外部評価) この一年は看取り支援を行った事例はないが、事業所では、看取りについての同意書をつくり、急変時、救急搬送時の対応について、毎年確認していただいている。ご家族の中には、「迷惑でなかったらここに置いてください」と希望する方もいるようだ。状態が悪化した利用者には、「病院に行く？ここにいる？」と聞きながら支援をされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護職員を中心に定期的に勉強会をしている。また緊急時マニュアルを作成し、万が一事故が発生した場合には慌てることなく対応できるよう普段より心懸けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回消防署と地域の協力者にも参加して頂き、避難、通報、消火を含めた昼夜の避難訓練を実施している。また運営推進介護のメンバーと共に訓練を行ったり、地元自治会の避難訓練にも参加して、災害時には協力して頂けるような関係作りをしている。管理者はご家族へも避難訓練への参加をお願いしている。	
			(外部評価) 事業所では火を使った後は、必ず元栓を閉めるようにされている。春には、消防署の指導のもと、火災想定避難訓練を実施され、地域の方も一緒に消火器を使って、消火訓練を体験された。秋には、自主訓練を行っている。運営推進会議時には、地域の協力をお願いし、自治会長から津波の場合、「利用者が地域の避難場所に行くのは難しいので、高台に避難するとよい」というアドバイスをいただいた。地域の方が役割分担して、車で避難させてくれるようになっている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々の生活の中では誇りやプライバシーに配慮した声かけをしている。食事の速度も個々に違う為、食事に時間をずらして行う等、慌てず急がない介護に取り組んでいる。	
			(外部評価) 管理者は、「目上の方には敬語を使う」ことを職員に話しており、職員同士でも実践されている。職員は、やわらかい言葉と笑顔で接することに心がけ、利用者がご自宅で過ごしていると思えるような支援に努めておられる。調査訪問時、職員は、利用者に「大丈夫？」と周りにわからないように、トイレの確認をされている場面が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 傾聴する事に心がご利用者の表情、言動、行動等いろいろな場面で意思表示が出来るよう支援している。日常生活の中では各担当者を中心にご本人の思いや希望を引き出すようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 天候や体調に合わせて可能な限り希望された日課を過ごして頂いている。また施設側の都合を優先させていないか、職員側のペースになっていないかミーティング等においては振り返りをするようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の行きつけの美容院やスーパーに出掛けている。ご家族にも協力して頂きご本人と共に衣替えをしたり、季節に合わせた服を用意して頂いている。可能な限りご本人が選んだ服装にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立は利用者からのリクエストや季節の食材を使ったものである。野菜や魚を多目に採りいれ地元の食材を使い話し合いながら一緒に下ごしらえをしたり調理、後片付けをしている。好き嫌いのあるご利用者には献立を変更して食べて頂く等の配慮をしてくる。	
			(外部評価) 食事の時間は決めておらず、利用者個々の生活のペースに合わせて支援できるよう取り組まれている。調査訪問時、利用者の状態に合わせて、箸とスプーン、又は、フォーク等を準備しておられた。職員は、デザートのスィカを「いらない」と断る利用者には「初物だから食べてみて」と伝えると口にされていた。職員は、スィカを話題にして会話されて、利用者は全部食べ「おいしかった」と感想を言っておられた。お誕生日には、個々のお好きな食事を作りお祝いされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 健康維持が出来るように個別に食事量・水分量を把握し、一日に必要な量が摂取できるよう工夫して健康管理に努めている。また個人のファイルに記録も残している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後口腔ケアの声かけをし誘導、見守り、一部介助をしている。自発的にできない方へは、出来ない部分の介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。必要に応じて歯科受診等も行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>食事や排泄習慣の改善を支援して便秘しないよう取り組んでいる。職員はオムツに排泄する気持ち悪さを知ったうえで、一人一人の排泄状況をアセスメントして、トイレで排泄することの意義を理解し支援にあたっている。声のかけ方ではご本人の自尊心を傷つけないような配慮をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>夜間、足元にふらつきのある利用者には、ベッドそばに背を向けてソファを置き、手すりになるようにして、ご自分で安全にトイレに行けるような環境を工夫されている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>なるべく薬に頼らないようにし、十分な水分補給と運動の声掛けを行い便秘の予防に努めている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者は週に2~3回入浴され、夏場には毎日入浴される方もある。朝入浴を希望される方もおられ、事業所の都合や時間帯を問わず本人の生活習慣やペースに合わせて支援している。入浴を拒否する方には入浴前に職員と一緒に着替えを用意したり馴染みの備品を用意したり個々に応じた支援をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>基本的には、往診や通院のない火、金曜日は、全員の利用者が入浴できるよう支援されている。その他の日でも汗をかいた時等には、シャワーを使用されている。一番風呂や熱めのお湯等、個々の好みや希望に沿った支援にも努めておられる。好みのシャンプー・リンスを使用し、手ぬぐいで身体を洗う利用者もいる。顔に水がかかるのを嫌がり、入浴を拒む利用者には、シャンプーハットを使用したり、ドライシャンプーを使用する等して対応されている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>遅い時間まで眠れない入所者さんには温かい飲み物を用意して夜勤者と共にテレビを観たり、会話を楽しみながら寝付くまで一緒に過ごすなどの努力をしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 往診時には主治医から本人に分かりやすく説明して頂いている。職員も一緒に説明を聞き副作用等の情報も把握している。症状の変化があれば、主治医に報告しその都度対応して頂いている。また職員は、薬の処方箋を一覧にし常に確認しご本人に手渡す際には説明が出来るよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者やご家族から以前からの楽しみや趣味等を聞いておき、継続して行えるよう支援している。得意な事でホームのお手伝いをしたり、職員と外出し気分転換を図られている。嗜好品においては、好きな飲み物を用意したり、寝る前にお酒を飲む習慣のあった方には飲んで頂いたりしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出を好まない方には無理強いをしないよう心がけ、「行きたいところへ行くことは当たり前」という考えのもと、出来る限りの外出支援をしている。桜の時期には花見に行き、夏祭りには花火を見に行く。時にはご家族の協力を得て、遠出をしたい方には希望の日や時間帯を聞き支援している。	
			(外部評価) 事業所の周辺を散歩して、老人会のゲートボールを観戦したり、秋には、コスモスを手折って、居間や居室に生け楽しまれている。利用者の状態や歩ける距離をみながら、近所にある管理者宅でお茶を飲み、一休みして戻るような場合もある。人出の多い日曜日は避けて外出できるよう配慮されており、ご家族や地域の方も誘って、一緒に南楽園に出かけたり、地域にある温泉で足湯を楽しまれることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持っていないと不安な方にはご家族の理解をいただき財布に少額入れていただき、買い物に行った際にはご自分で支払いをし、社会とのつながりを感じて頂けるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人が十分に行えないことは支援しながら、御家族や友人に手紙を書いたり、贈り物が届いたら電話をかけるようにしている。又ご本人で携帯電話を所持している方も居られる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 事業所は田園に囲まれて周りには季節の木々が茂っている。天気の良い日にはなるべく外気に触れるようにし窓も開放して風通しには注意を図っている。時計やカレンダーを見やすい位置に掛け、玄関先には季節の花を生け心地よく過ごして頂けるように配慮している。	
			(外部評価) 地域の方達が自発的に順番を決めて、玄関に花を生けてくださっている。壁には、利用者が顔を書いた、てるてる坊主を飾っておられた。又、折り紙で作ったあじさいや、菖蒲等も飾られていた。事業所では、車椅子は移動する用具として捉え、居間では椅子に座って過ごせるように支援されている。「足を地に着けることは大切なこと」と考え、利用者の状態に応じて足置きを準備されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) それぞれの方が自分の場所があり、自由に過ごされている。気の合う利用者同士がソファで隣に座り話をしたりテレビを観たり、共用空間の中で思い思いに過ごせるような工夫をしている。	
			(外部評価) 家具やソファ、飾り等馴染みの物を置かれ、今までと変わらない居室作りをすることによって、御家族や知人が来られた時には共に落ち着いて過ごせるようにしている。お気に入りの写真を飾ったりご自宅から仏壇を持ち込まれている方もある。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には、利用者の誕生日に職員全員で書いたメッセージカードを飾っておられた。利用者の昔の写真や母親の顔写真を飾っていたり、仏壇にお菓子をお供えしているところもみられた。居室の窓からは、春は山桜、初夏は青田、秋は黄金色に実った稲、そして一面のコスモス等、季節を感じることができる。昼食後には、居室に戻り、休む方やテレビを見ている方がおられた。	
			(外部評価) 居室の家具の配置等は身体機能に合わせ工夫し安全に暮らせるようにしている。また、廊下、浴室等においては手すりを設置し、移動の際には十分注意をしてもらうよう声掛けをしている。トイレの位置や居室の場所が分からない時には貼り紙などの工夫もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室の家具の配置等は身体機能に合わせ工夫し安全に暮らせるようにしている。また、廊下、浴室等においては手すりを設置し、移動の際には十分注意をしてもらうよう声掛けをしている。トイレの位置や居室の場所が分からない時には貼り紙などの工夫もしている。	
			(外部評価)	